



# 「総合知」の本年度の普及啓発（キャラバン等）の進め方

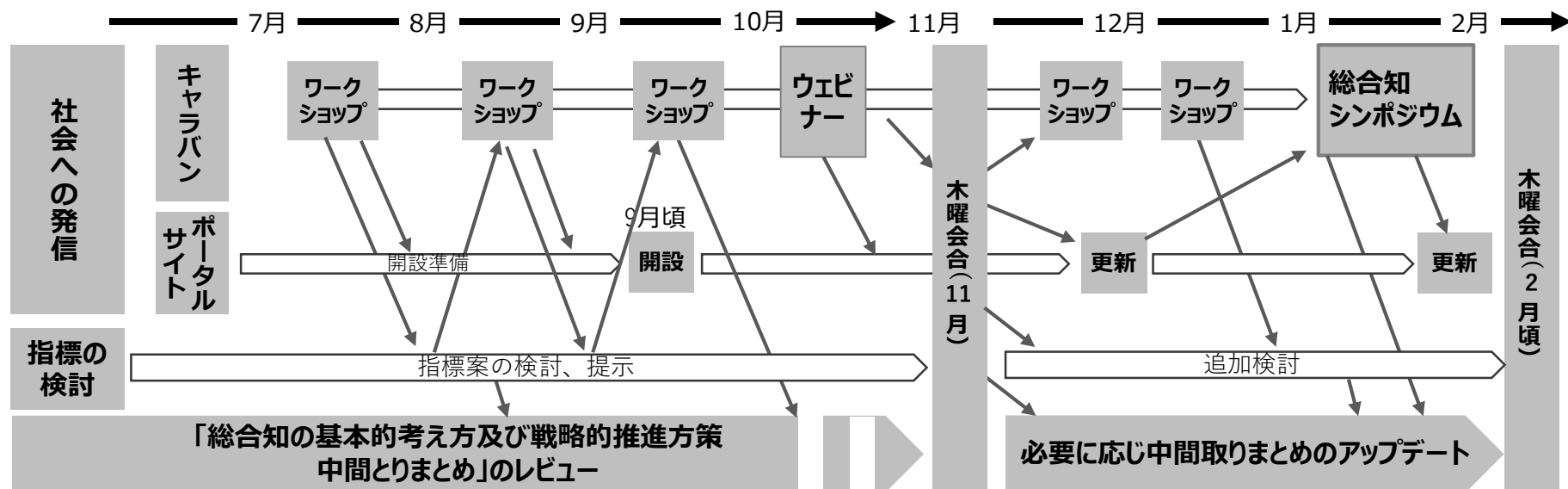
令和4年7月7日 内閣府  
科学技術・イノベーション推進事務局

## 概要

2021年度にとりまとめた「総合知」の基本的考え方および戦略的に推進する方策を、広く社会に発信し、総合知の活用を推進するとともに、総合知の活用事例の収集や、推進方策の改善・強化にむけた情報収集等を行うために、シンポジウム、ウェビナー、ワークショップ等を組み合わせたキャラバンを実施する。得られた情報を整理し、有識者議員懇談会で議論し、総合知の戦略的な推進方策に反映する。

## 進め方

- 7月から、各地の大学等でワークショップを開催
- 10月頃にウェビナーを開催
- 来年1～2月に、大規模なシンポジウムを開催
- 得られた情報は、ポータルサイトのコンテンツとして活用し、発信
- 11月と2月頃に有識者議員懇談会にて報告



# 総合知キャラバンの開催形式の例（イメージ）



## ワークショップ（7月から順次）

- 趣旨 : 総合知を推進するため、中間とりまとめの周知と意見交換
- 参加者 : 研究者及び研究管理者  
(大学、企業、自治体、学協会等)
- 参加人数 : 30～40人程度  
5～7回程度実施
- 実施内容 : 「総合知」の解説 (内閣府)  
総合知の活用事例紹介 (参加者側から数件)  
意見交換

## ウェビナー（10月頃）

- 趣旨 : 幅広い層への情報発信
- 参加者 : 主に大学等の研究者および研究管理者
- 参加人数 : 100～200人程度
- 実施内容 : 基調講演 (CSTI議員)  
総合知の活用事例紹介※1  
パネルディスカッション※2
- 参考案 ※1 大学やプロジェクトでの取り組み (2～3名程度)  
※2 パネリスト : CSTI議員 1～2名、事例の講演者

## 総合知シンポジウム（1～2月頃）

- 趣旨 : 大規模な集客を図り、幅広い層への情報発信と意見収集を目的とする
- 参加者 : 研究者及び研究管理者に加え、企業や自治体関係者、一般市民も対象
- 参加人数 : 200～300人程度
- 実施内容 : 基調講演 (CSTI議員)  
総合知の活用事例紹介 (3名程度)  
大学やプロジェクトでの取り組みに加え、企業や自治体の取り組みも検討  
パネルディスカッション等 (CSTI議員、事例紹介の講演者も参加)
- 備考 : 大臣挨拶を検討  
新型コロナウイルス感染症の状況により、完全オンラインも検討



科学技術・イノベーション基本法(令和3年4月1日施行)では、あらゆる分野の知見を総合的に活用して社会課題に対応していくという方針が示された。これは、科学技術・イノベーション政策が、専門分野の枠にとらわれない多様な知を総合的に活用する「総合知」により、人間や社会の総合的理解と課題解決に資する政策となることの必要性と方向性を指したものである。以上を踏まえ、第6期科学技術・イノベーション基本計画に基づき、令和3年度に総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会にて「総合知」の検討を進め、基本的考え方と戦略的な推進方策についてとりまとめた。今後は内閣府のプロジェクトや相乗効果の期待される方策での「総合知」の活用の進捗・効果を検証し、社会に発信していく。

### 「総合知」の必要性

世界の研究や技術開発の目的の軸足が、「持続可能性と強靱性」、「国民の安全と安心の確保」に加えて、「一人ひとりが多様な幸せ(well-being)を実現できる社会」に移りつつある。

我が国の科学技術やイノベーションが、世界と伍していくためには、「あらゆる分野の知見を総合的に活用して社会の諸課題への的確な対応を図る」ことが不可欠

### 「総合知」の基本的考え方

多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むこと

- 多様な「知」が集うとは、属する組織の「矩」を超え、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」が集うこと。
- 新たな価値を創出するとは、安全・安心の確保とWell-beingの最大化に向けた未来像を描くだけでなく、科学技術・イノベーション成果の社会実装に向けた具体的な手段も見出し、社会の変革をもたらすこと。

